

## 畜舎におけるレーザーを用いた鳥獣害対策の効果検証

証：備前県民局畜産班 高取和弘

牛舎への野生鳥獣、特にカラスの侵入は、飼料盗食による損失や牛体への攻撃による牛の損耗、感染症媒介等の問題が発生。実際に岡山地域ではカラスの媒介と考えられる感染症の発生が確認。従来のカラス対策として、爆音機が知られているが、鳥獣害対策用のレーザー装置を山陰パナソニックが開発。そこで、畜舎に5分毎作動するレーザー装置を設置し、定点カメラと目視で野生鳥獣の影響を調査。当初2週間、レーザー作動中に牛舎内へカラスの侵入はなし。3週以降、レーザー停止中のみ侵入したが、作動中の侵入はなし。また、調査期間を通じてカラス以外の鳥類は牛舎侵入を確認。レーザー装置は電動で、従来の爆音機と比べ、管理作業が低減。本調査からレーザー装置はカラスの侵入抑制効果として有効。対面2台設置で常時照射による、カラスの侵入防止が可能と推測。今後、音等周辺環境に配慮が必要な立地での活用が期待される。